ロナルド・マクドナルド・ハウス特集

2026年10月1日より
「ロナルド・マクドナルド・ハウス」に変わります！

Ronald McDonald House®
Japan

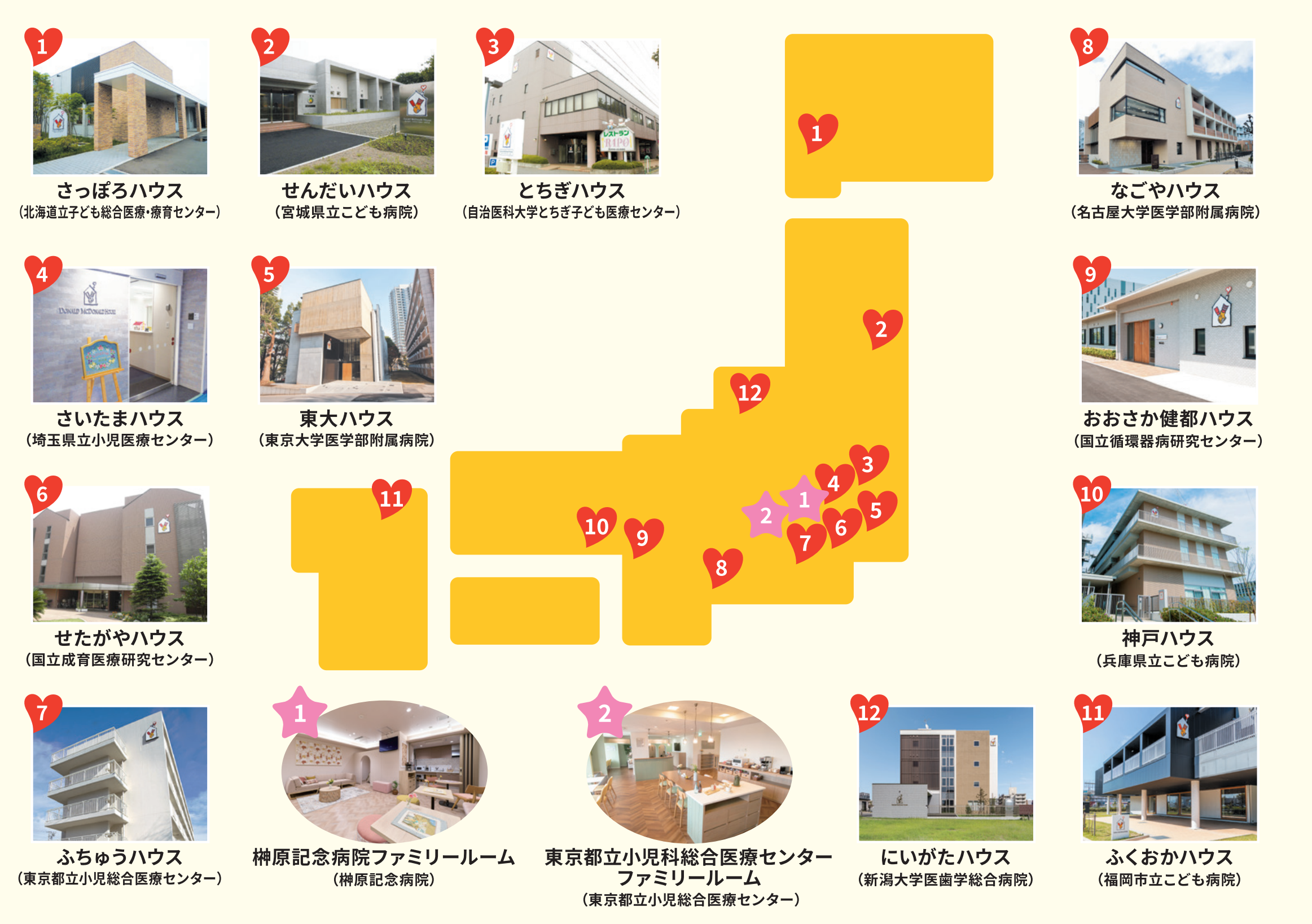
実は、ハウスが世界では「ロナルド・マクドナルド・ハウス」の
名前で親しまれていると知っていますか？
2024年にグローバル創立50周年、
2026年に日本国内1号ハウス開設25周年という節目を迎える今年、
10月1日より日本でも名称を
「ロナルド・マクドナルド・ハウス」へ統一します。
ロゴも新しくなり、ハウスのアンバサダーとして親しまれてきた
キャラクターも「ロナルド・マクドナルド」へ。
けれど、病気と向き合う子どもたちとそのご家族に寄り添い、
安心して過ごせる環境を提供するという使命は、
これまでと何も変わりません。
グローバルなネットワークとの連携をさらに進め、
利用料の無償化や栄養価の高い食事の無償提供など、サービスを拡充。
世界の仲間と共に、病気と向き合う子どもとそのご家族への支援を
さらに広げていきます。

詳しくは、「ロナルド・マクドナルド・ハウス」のホームページをご覧ください。
https://www.dmhcj.or.jp/

ロナルド・マクドナルド・ハウス

ここは、お家から遠く離れた病院に入院・通院している子どもとご家族のための第二のわが家。
子どもの治療に付き添うご家族のための滞在施設です。
ロナルド・マクドナルド・ハウスの運営は100%ご寄付とさまざまなご支援で成り立っています。

全国の施設数 **12**ハウス **+2**ルーム

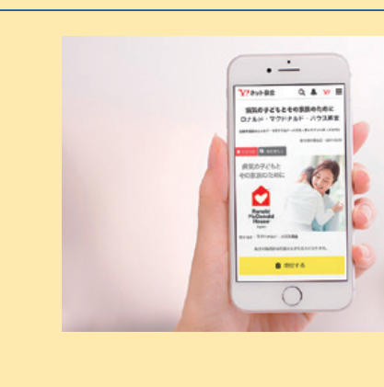

1 さっぽろハウス
（北海道立子ども総合医療・療育センター）
2 せんだいハウス
（宮城県立こども病院）
3 とちぎハウス
（自治医科大学とちぎ子ども医療センター）
4 さいたまハウス
（埼玉県立小児医療センター）
5 東大ハウス
（東京大学医学部附属病院）
6 せたがやハウス
（国立成育医療研究センター）
7 ふちゅうハウス
（東京都立小児総合医療センター）
8 なごやハウス
（名古屋大学医学部附属病院）
9 おおさか健都ハウス
（国立循環器病研究センター）
10 神戸ハウス
（兵庫県立こども病院）
11 ふくおかハウス
（福岡市立こども病院）
12 にいがたハウス
（新潟大学医歯学総合病院）
1 榊原記念病院ファミリールーム
（榊原記念病院）
2 東京都立小児科総合医療センター ファミリールーム
（東京都立小児総合医療センター）

支援方法

店頭募金

モバイルオーダー

Yahoo!ネット募金



PayPayでの募金
こちらから募金いただけます
※支払い条件あり

※イメージ画像のため、実際と異なる場合がございます。

ハウスの利用者さまから届いた声

ハウスの活動が届けている"笑顔"をご紹介します。

ロナルド・マクドナルド・
ハウス支援の詳細はこちら

病気を克服して母になりました

初めて「ロナルド・マクドナルド・ハウス」を利用したのは私が12歳の時。自宅の沖縄から遠く離れた東京の病院で長期入院をしていました。帰る家が遠く、外泊することもできない私の気持ちを汲んだ母が、ハウスの予約を取ってくれたんです。そして初めて外泊が叶いました。

利用当日「ハウスではわが家のように過ごしてね」とボランティアの方がやさしく話しかけてくれて、ホッとしたことを覚えています。母はハウスにあるキッチンで料理を作り、二人で楽しく食事をしました。「ハウスに寄付された『ご自由にどうぞ』の食材はとても助かるんだよ！」「見えないところで病気と向き合う私たちを応援してくれている人がいるって感じるね！」そんな会話をしました。母と共にハウスを利用できたことが支えとなり、病院に戻った後も、また治療に専念できました。そして無事、小児がんを克服できました。

あれから20年を経て、入院していた病院で長男を出産し、私は母となりました。これからもハウスが、病気と向き合う子どもたちに寄り添い、人の温かい思いが集まり、支え合う場所──そんな家族のような「第二のわが家」であり続けてほしいと思います。

きょうだいにも、やさしく寄り添う場所

うちの子は、仲良しの2人きょうだい。しかし、下の息子は大きな手術を2回経験して入退院を繰り返していました。息子への心配はもちろん、大好きな弟に会えず、家族でのお出かけもできなくなった上の娘に寂しい思いをさせてしまうのが、何よりつらかったです。

そんな時、支えてくれたのが、「ロナルド・マクドナルド・ハウス」でした。以前は移動時間の問題でなかなか面会に行けませんでしたが、ハウスを利用してからは一日に何度も弟に会えるように。息子も面会に行くとすぐにお姉ちゃんを探すほど、お互いの存在が力になっていました。

また、クリスマスにはハウスでケーキをいただいたりと、ハウスで過ごす時間は、娘にとって、お出かけに代わる楽しいひとときでした。ハウスは病気の子どもだけでなく、そのきょうだいまで見守ってくれる場所です。支援してくださっている皆さんには、2人の成長を応援してもらっているような気持ちです。

出会いが私を強くしてくれた

息子の治療のために、自宅のある山梨から東京の大きな病院に移ることに。できるだけ長く付き添いたい。そう考えていた際、紹介されたのが「ロナルド・マクドナルド・ハウス」です。

ハウスで、同じように病気の子どもを持つお母さんと出会えたことが本当に心強かったです。何気ない時間を過ごす中でお互いに励まし合いました。おかげで「よし明日もまた頑張ろう」と思うことができました。

いろんな出会いや前を向くきっかけをつくってくれたハウスのことをもっと多くの方が知り、子どもたちの明るい未来が広がっていくことを願っています。

母として、ドナーとして助けられた入院生活

ドナーである私から、肝臓の病気を患っていた息子へ、移植手術をすることになりました。病院までは片道2時間と毎日通うには厳しい距離。そんな時、病院の先生がハウスのことを教えてくれたのです。

移植前後は心と体がすごくつらかったですが、それでも息子に付き添うことができたのはハウスのサポートのおかげです。ハウスには必要なものが何でも揃っていて、息子の付き添いと自分の身体を休めることだけに専念できました。

息子は退院後すっかり元気になり、毎日楽しく保育園に通っています。私も、同じように病気を持つ子どもとそのご家族の役に立てることがあれば、少しずつでもできることに取り組んでいきたいです。

撫でる手に込めた父の決意

息子は生まれてから、宮城の病院で手術を繰り返してきました。生後7カ月には妻がドナーとなり、埼玉の病院で移植手術をすることに。私は「二人をサポートできるのは父親の自分しかいない」と、1カ月仕事を休み付き添うことを決意。ハウスを利用させてもらいました。

ハウスから病室まではすぐなので毎日息子に会いに行き、意識がない日も頭をぽんぽんと撫でて励ますことができました。その時のことを覚えているのか、今でも頭を撫でると安心するようです。

息子は無事に退院。通院の際には家族でハウスを利用しています。皆さんの支えや応援のおかげで、前向きに病気に立ち向かう勇気が持てました。

僕はひとりぼっちじゃない

僕は4歳の時、股関節の病気になりました。すぐに大きな病院へ入院し、僕の楽しかった日常は、非日常になったんです。

大変なリハビリも乗り越えられたのは、どんな時もお父さんがそばにいてくれたからです。約2年間の入院中、お父さんは500日近くハウスを利用していて、リハビリを応援してくれたり、歩きやすくするために毎日1時間以上マッサージをしてくれたり。それが僕の頑張る力になっていました。

僕は今、12歳になり、学校で友達とサッカーができるくらい元気になりました。でも、病気になったことは忘れません。もちろん、ハウスに助けてもらったことも、ずっと覚えています。素敵な場所をなくさないためにも、どうかたくさんの人にハウスのことを応援してほしいと思います。

© McDonald's